

JENESYS2024 日本・ASEAN 学生会議の記録 (招へいプログラム)

1. プログラム概要

【目的】このプログラムは、日本とASEAN諸国^(注)及び東ティモールの青年が、日ASEAN関係について学習し、アジア地域に共通する課題についての認識を共有し、課題解決に向けた意見交換を通じて、(1)自らが持つ能力や可能性に気づき、社会貢献の醸成を図ること、(2)文化の多様性を認め合いつつ相互理解を促進すること、(3)参加各国の青年の友好・協力ネットワークを強化することを目的として実施しました。

(注) ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【概要】2025年1月14日から21日まで、「日本・ASEAN 学生会議」(1月18日～20日、於：東京)に出席するためにASEAN諸国及び東ティモールの大学生106名が来日しました。一行は、「学生会議」の開催に先立ち、学生会議のテーマ別に3つのグループに別れ、「海洋安全保障・法の支配」グループは静岡県、「気候変動・エネルギー」グループは千葉県、宮城県、「文化保存・教育」は栃木県を訪問し、テーマに関する聴講、視察を通じて日本の事例を学びました。また、ホームステイや訪問地の文化を体験し、日本の魅力についてSNSを通じて多くの若者に共有しました。「学生会議」では、日本人大学生9名も参加して各テーマについて討論し、課題解決に向けて自分達若者ができることを考え、最終日の報告会ではアクション・プラン(帰国後の活動計画)を発表しました。

【参加者】ASEAN 諸国、東ティモール及び日本の大学生 合計106名

(内訳)インドネシア9名、カンボジア9名、シンガポール8名、タイ9名、フィリピン9名、ブルネイ9名、ベトナム9名、マレーシア9名、ミャンマー8名、ラオス9名、東ティモール9名、日本9名

【訪問地】東京都106名、千葉県32名、静岡県33名、宮城県32名、栃木県32名

【日程】

■ プレプログラム(オンライン事前学習)：

1月7日(火曜日) 【来日前オリエンテーション】【参加者間交流】

来日までの指定期間 【課題学習(動画配信)】訪問地の学習(宮城県南三陸町)、日本語体験、日本の政策(自由で開かれたインド太平洋(FOIP))

■ 招へいプログラム：

1月14日(火曜日) 成田国際空港及び羽田空港より入国、【来日オリエンテーション】

【基調講演】「日本アセアンセンターから参加者へのメッセージ」

講師：国際機関日本アセアンセンター(AJC)平林 国彦 事務総長

1月15日(水曜日) 【表敬訪問】生稲 晃子 外務大臣政務官

3つのグループに分かれ、都内近郊での視察後、静岡、千葉・宮城、栃木へ移動。

● 「海洋安全保障・法の支配」グループ

【講義】海上保安庁「海上保安庁概要」「海上保安庁モバイルコーポレーションチームについて」

講師：海上保安庁総務部国際戦略官付 派遣協力業務係長 増田 聖由 氏

【視察】海洋情報資料館

- 「気候変動・エネルギー」グループ
【講義・視察】千葉商科大学「千葉商科大学のネットゼロカーボンアクションとキャンパスツアー」
講師：千葉商科大学 基盤教育機構 准教授 手嶋 進 氏

- 「文化保存・教育」グループ
【講義・視察】一般社団法人伝統的工芸品産業振興協会 伝統工芸青山スクエア
「伝統的工芸品について」
講師：一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 伝統工芸青山スクエア 店長 朝川 和彦 氏

1月16日（木曜日）～1月17日（金曜日）

- 「海洋安全保障・法の支配」グループ（静岡県）
【視察】一般財団法人マリンオープンイノベーション機構、静岡県水産・海洋技術研究所、御前崎スマイルプロジェクト「渚の交番」、【ホームステイ】榛原郡川根本町

- 「気候変動・エネルギー」グループ（宮城県）
【講義・視察】
公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター
講師：公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 主任研究員 藤本 泰文 氏
【視察】みやぎの明治村（登米市）、【ホームステイ】登米市

- 「文化保存・教育」グループ（栃木県）
【表敬訪問・講義】栃木県教育委員会 挨拶：栃木県教育委員会 教育長 阿久澤 真理 氏
「栃木県教育振興基本計画 2025」
講師：栃木県教育委員会 教育政策課教育 DX 推進室政策企画チーム 課長補佐 大高 裕一 氏
【視察】栃木県立宇都宮工業高等学校
【文化体験】竹林散策・竹工芸体験 若竹の杜若山農場、【ホームステイ】大田原市

1月18日（土曜日） 静岡県、宮城県、栃木県から東京都へ移動。

学生会議1日目【全体オリエンテーション】【テーマ別講義・討論】

- 「海洋安全保障・法の支配」グループ
【講義】「海洋安全保障・法の支配」 講師：東北大学大学院法学研究科 教授 西本 健太郎 氏
- 「気候変動・エネルギー」グループ
【講義】「気候変動緩和、エネルギー、開発」 講師：公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）
戦略マネジメントオフィス 上席研究員 松尾 直樹 氏
- 「文化保存・教育」グループ
【講義】「文化遺産の保護と継承に関する現在の課題」 講師：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 副所長 友田 正彦 氏

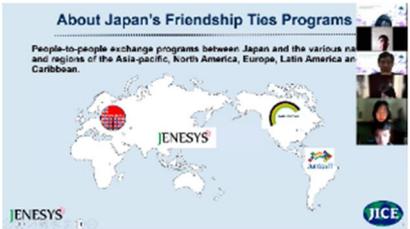
1月19日（日曜日） **学生会議2日目【グループ別討論会】**

1月20日（月曜日） **学生会議3日目【グループ別討論会】、【ワークショップ】訪日成果のまとめ、アクション・プランの作成、【報告会】**

1月21日（火曜日） 成田国際空港及び羽田空港より出国

2. 記録写真

■ プレプログラム（オンライン事前学習）

	
<p>2025年1月7日【来日前オリエンテーション】</p>	<p>2025年1月7日【参加者間交流】</p>

■ 招へいプログラム

・グループ共通（東京都）

	
<p>2025年1月14日【基調講演】「日本アセアンセンターから参加者へのメッセージ」</p>	<p>2025年1月15日【表敬訪問】 生稲 晃子外務大臣政務官（写真提供：外務省）</p>

	
<p>2025年1月15日【表敬訪問】記念撮影（写真提供：外務省） https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01628.html</p>	

・「海洋安全保障・法の支配」グループ（静岡県）

	
<p>2025年1月15日【講義】海上保安庁</p>	<p>2025年1月16日【視察】 一般財団法人マリンオープンイノベーション機構</p>

	
<p>2025年1月16日【視察】 静岡県水産 海洋技術研究所</p>	<p>2025年1月17日【視察】 御前崎スマイルプロジェクト「渚の交番」</p>
<p>・「気候変動・エネルギー」グループ（宮城県）</p>	
	
<p>2025年1月15日【講義】千葉商科大学</p>	<p>2025年1月15日【視察】千葉商科大学</p>
	
<p>2025年1月16日【講義・視察】 伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター</p>	<p>2025年1月17日【文化体験】 みやぎの明治村</p>
<p>・「文化保存・教育」グループ（栃木県）</p>	
	
<p>2025年1月15日【講義・視察】一般社団法人伝統的工芸品産業振興協会 伝統工芸青山スクエア</p>	<p>2025年1月16日【表敬訪問・講義】 栃木県教育委員会事務局</p>
	
<p>2025年1月16日【視察】 栃木県立宇都宮工業高等学校</p>	<p>2025年1月16日【文化体験】竹工芸</p>

・ホームステイ

	
<p>2025年1月17日【ホームステイ】 静岡県 榛原郡川根本町</p>	<p>2025年1月16日【ホームステイ】 宮城県 登米市</p>
	
<p>2025年1月17日【ホームステイ】交流会 宮城県 登米市</p>	<p>2025年1月17日【ホームステイ】 栃木県 大田原市</p>

・日本・ASEAN 学生会議（東京都）

	
<p>2025年1月18日【講義】 「海洋安全保障・法の支配」</p>	<p>2025年1月18日【講義】 「気候変動緩和、エネルギー、開発」</p>
	
<p>2025年1月18日【講義】 「文化遺産の保護と継承に関する現在の課題」</p>	<p>2025年1月19日【グループ別討論会】</p>
	
<p>2025年1月20日【ワークショップ】</p>	<p>2025年1月21日【報告会】</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ ブルネイ 大学生

プログラム期間中、私たちが訪れた静岡県各地の文化を知って驚きました。また、日本の風景には本当に感動しました。この8日間で、日本のすばらしいところを経験できたなんて信じられません。

（ムスリムの）食事手配を含め、私たちを受け入れてくださった一人ひとりに感謝します。このプログラムのおかげで、日本全般と日本文化をもっと深く知りたくなり、日本を再訪したいという気持ちが強くなりました。このプログラムが続くことを強く願っています。

◆ カンボジア 大学生

学校訪問では多くの洞察を得られました。特にインフォグラフィック（情報を視覚的に伝える図やイラストのこと）は、私の国では思いつかなかった手法だったので、とても参考になりました。

◆ インドネシア 大学生

水産・海洋技術の研究所の視察が特にためになりました。魚やその他の海産物からどのように製品が作られるかを実際に見ることができました。

◆ ラオス 大学生

日本の高校で勉強したいとずっと願っていたので、学校の視察は最も感動しました。日本の学生生活はとても楽しそうです。残念ながら、私の10代は、日本で過ごす機会には恵まれませんでした。宇都宮高校を訪問したことで私の夢が叶いました。アニメやインターネットでしか見たことのなかったものを実際に体験できて感動しました。

◆ マレーシア 大学生

海洋安全保障の重要性とそれに関連する他プログラムは、非常に楽しく学ぶことができました。自国の将来に、私の経験をどのように活かしていけるものか、深く考えるようになりました。

◆ ミャンマー 大学生

最も印象に残ったことは、ホームステイと若山農場です。ミャンマーにも竹はありますが、その保存方法や効果的な活用法を知りませんでした。若山農場での学びは、とても刺激的でした。ホームステイはとても有意義なものでした。日本のお父さんは、言葉の壁があっても本当の家族のように優しく温かく接してくれました。伐採、野菜の収穫、温泉、どれも忘れられない思い出になりました。

◆ フィリピン 大学生

宇都宮工業高校を訪問して非常に感銘を受けました。彼らが技術と科学の発展に向けてどのような努力をしているかを説明してもらえました。また、その取り組みが効果的に活用されている事実を目の当たりにしました。もう一つのすばらしい経験は、餅つきや書道など、日本の伝統的な生活様式や日本家庭でのホームステイ体験です。

◆ シンガポール 大学生

千葉商科大学への訪問とホームステイ体験に特に感銘を受けました。千葉商科大学で、教職員及び学生の持続可能な取組を見学しました。私の大学も同様の目標を掲げているため、この訪問を通じて得た貴重なアイデアを、自分の大学に持ち帰り、共有したいと考えています。ホームステイは短期間でしたが、日本文化は深く印象に残りました。日本の家族にとっても温かく迎えられ、私たちは日本のお風呂、畳部屋の宿泊、本格的な家庭料理を味わい、楽しみました。また、私たちはホストファミリーと南三陸震災遺跡を訪問し、そこでの大地震と津波の壊滅的な出来事を知りました。私たちは、このような自然災害の経験はなかったので、この訪問は非常に衝撃的でした。水位がどのくらいの高さに達したのかを知り、消失した村々の跡地を見たことは、写真では伝わらないものでした。

◆ **タイ 大学生**

環境への理解促進のために、地域コミュニティと人々との信頼構築を優先している日本の組織、安全に関わる組織や部署について、良く理解ができました。(彼らの活動は)前向きな環境変化を生み出すことへの関心も高めることができます。地元の人々が地域社会で収入を得る機会を増やしなが
ら、海洋食料資源の価値を高める戦略と政策があることも、とても素晴らしいことだと思います。

◆ **東ティモール 大学生**

ホストファミリーはとても親切で、和気あいあいとした家庭でした。日本の家族が作ってくれた日本料理をたくさん食べ、日本文化についても多くを学びました。もう一つの印象深い点は、大学やサンクチュアリーセンターへの見学で、湖沼の水質汚染について学び、意見交換しました。また、日本
は私が今まで見た中で最も清潔な国と言えます。日本への到着日からずっと、道路や訪問先にはゴミ一つ落ちていませんでした。

◆ **ベトナム 大学生**

「文化保存・教育」グループは、多くの場所を訪れましたが、最も印象的だったのは、若山農場を訪れたことでした。さまざまな種類の竹について学び、竹が日常生活でどのように活用されているかを学びました。日本人は与えられた資源を最大限に活用する方法を本当によく知っています。

◆ **日本 大学生**

千葉商科大学では、気候変動や地球温暖化の専門家である教授から、GHG（温室効果ガス）の排出量を削減するために、私たち一人ひとりができることを教えていただきました。例えば、千葉商科大学の学生は、無駄なエネルギーを大量に消費する自動販売機の撤去に取り組みました。小さな努力の積み重ねが、地球環境を良くしていくのだということを学びました。

4. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **自治体関係者（栃木県）**

教育委員会からの説明を参加学生は、熱心にメモをとり、盛んに質問をしていたことから、(彼らが)母国以外の教育にも大きな関心があり、母国に知見を持ち帰ろうとする熱心さを知ることができました。学校見学においても、日本人学生が学んでいる施設を熱心に見学する様子や、自ら体験学習に積極的に参加するなど、教育への関心や熱意の大きさを感じることができました。栃木の教育について知っていただく大変良い機会になったと感じています。

◆ **講師**

国際交流事業は大変意義のあるものと思っております。質疑の時間に参加者から非常に多くの質問が出たことは印象的で、質問の内容もテーマについての関心の高さを伺わせるものでした。

◆ **協力団体（静岡県）**

我々のミッションは、学生たちが本県で有意義な学びを得ることです。静岡県のことを知って、いつかまた訪問してほしいと願っています。今回の学生さんたちにも静岡県を気に入っていただけたようですので大変嬉しく思っております。



2025年1月15日 (Instagram)
 ベトナム 大学生：千葉商科大学 (CUC) を訪問しました。大学キャンパスで再生可能エネルギーを作り出す取り組みを見ることができたのは、貴重な経験でした。このような取り組みを見たのは初めてで、より良い世界を目指す彼らの努力に、温かい気持ちになります。キャンパスツアーでは、再生可能エネルギーを使用したワイン作りや、キャンパスの屋上に設置されたソーラーパネルなども見学しました。



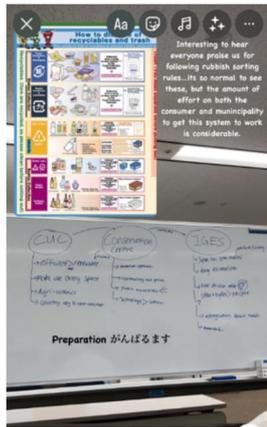
2025年1月15日 (Instagram)
 ベトナム 大学生：ベトナム代表として、JENESYS 代表団の学生に選ばれたことを光栄に思います。「文化保存・教育」というテーマは、伝統と革新がどのように共存できるのかを探求するすばらしい機会となりました。日本の外務省への表敬訪問は、有意義で忘れられない瞬間で満たされ、本当に感動的なものでした。学び、成長、そして文化交流の旅に参加できることに感謝しています。



2025年1月16日 (Instagram)
 ラオス 大学生：富士山からこんにちは。日本で働き、または勉強している MZ 世代 (ミレニアル世代と Z 世代) と交流する機会を得ました。しばらくここにいますが、これらの活動にまだ興奮し続けています。日本はとても平和な場所です。みなさん、一生に一度は (ここを) 観光すべきです。



2025年1月16日 (Instagram)
 タイ 大学生：私は「伝統工芸青山スクエア」を訪問し、本当に驚き、感銘を受けました。各都道府県のユニークな工芸品が展示・販売されており、この取り組みは伝統工芸を保存・保護するだけでなく、SDGs とも調和しています。さらに、伝統工芸を若い世代に紹介し、幼い頃からこれらの伝統とつながりを持たせる取り組みには感心しました。子どもたちをここへ連れて来る校外学習を通じて、文化遺産の美しさや価値を理解させることも素晴らしいと思います。文化の持続だけでなく、次世代への意識と責任を育むのに良い方法です。



2025年1月19日 (Instagram)
 日本 大学生：ゴミの分別ルールを守っていることをみんなが褒めてくれました。日本では、ごく普通のことですが、ゴミ分別の仕組みを機能させるために住民と自治体の双方の努力は相当なものです。



2025年1月25日 (YouTube)
 タイ 大学生：「JENESYS2024 EP.1&EP.2、日本でのホームステイ」1日ごとにプログラムの内容を紹介した動画を掲載。自治体表敬、報告会での発表を見ることができるとともに、日本食の良さや日本のコンビニで買える食材、ホストファミリーとのやりとりなどを広く配信しています。



2025年1月16日 (千葉商科大学の X)
 1/15 対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024 日本・ASEAN 学生会議」に参加している11か国の学生34名が来校。気候変動・エネルギーをテーマに選んだ学生たちは、本学学生とともに講義受講と学内施設見学をしました。



2025年1月15日 (ブルネイ新聞: Borneo Bulletin)
 「日本への旅に出る学生たち」
 大学生3名が、JENESYS 招へいプログラム JENESYS2024 日本・ASEAN 学生会議に参加するために出国しました。



2025年1月16日(生稲 晃子 外務大臣政務官のホームページ)
 「JENESYS2024 日本・ASEAN 学生会議」参加学生による表敬訪問

2025年1月18日(青部の里 茶風花の Instagram)
 「日本・ASEAN 学生会議で来日した大学生たち」
 昨晩は川根本町の農家民宿、ゲストハウス、民泊の宿に分かれて宿泊。茶茗館で川根茶を楽しんで長島ダムと奥大井湖上駅へ。茶娘衣装を着たり、大笑いしたり、楽しい一晩でした。

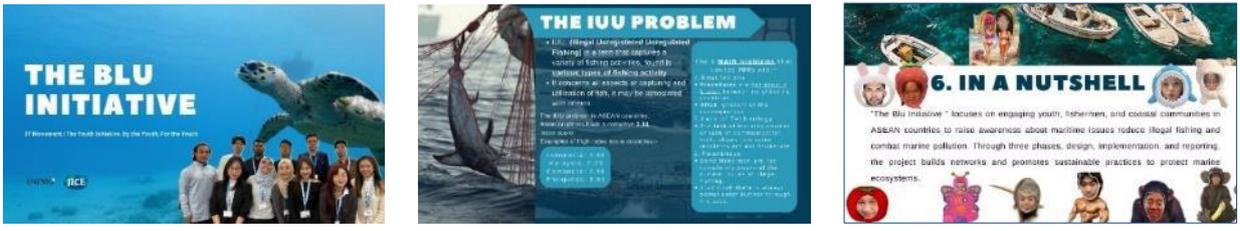


2025年1月21日(ベトナム新聞: Vientiane Times)
 「日本・ASEAN 学生会議でラオスの声が聞かれる」

2025年2月4日(マリアノ・マルコス州立大学(フィリピン)の Facebook)
 「3名の学生が日本交流プログラムに参加」
 「気候変動とエネルギー」グループでは、気候変動政策、さまざまな文化活動、現地視察、ワークショップなどに参加し、日本の文化や社会に対する理解を深めるきっかけになりました。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表(抜粋)

「海洋安全保障・法の支配」グループ1



【成果の発表】

ASEANは平和、安定、繁栄を継続的に推進してきました。ASEANの近年の最大の功績は、加盟国間の経済的な融合を推進したことです。何百種類もの海洋生物が、ゴミによって悪影響を受けるだけでなく、がれきは船の安全な航行を妨げ、人間の健康をも脅かします。IUU(違法・無報告・無規制)で行われる漁業は魚の捕獲と利用のあらゆる側面に関与して、犯罪に関わることもあります。

【アクション・プラン】

違法漁業を撲滅して海洋資源を保護します。また、海上汚染を減らします。若者、漁師、沿岸地域社会に向けて、沿岸地域や河川地域の資源をめぐる海洋問題に関する意識を高めるため、Instagram、X、TikTok、ポッドキャストなどのプラットフォームを活用して、私たちの使命を伝えていきます。

「海洋安全保障・法の支配」グループ 2



【成果の発表】

IUU 漁業は、海洋生態系に悪影響を及ぼし、生態系の持続可能性を阻害する可能性があります。IUU 漁業によって、地域レベルでの生活や国家レベルでの経済発展が危険にさらされています。水産業における労働条件は、安全で公平で、人為的搾取のないものでなくてはなりません。

【アクション・プラン】

私たちは海の健全性を守り、地域社会を支援し、犯罪行為と闘うために、IUU 漁業について関心を持たなければなりません。私たちは、外洋環境啓発ネットワーク「OSEAN」を立ち上げ、東南アジアと日本の青少年、環境 NGO、地域社会、海洋保全の専門家を対象に、多様なシーフード料理や文化の紹介、IUU 漁業関連問題の報告などを SNS（Instagram、Facebook）で発信します。

「海洋安全保障・法の支配」グループ 3



【成果の発表】

ASEAN の抱える課題としては、気候変動、魚の乱獲、海洋の酸性化、経済格差、ガバナンス問題、限定的な海洋探査、財源の格差、汚染が挙げられます。私たち海洋国家は豊富な水に囲まれていて経済はツーリズムや食料などの面で海に依存しています。そして時代はグリーンエコノミーからブルーエコノミーに移りつつありますが、多くの海洋資源が海洋汚染により失われつつありこの問題を解決しなくてはならないと気づきました。

【アクション・プラン】

ブルーエコノミーは持続可能な経済発展にとって極めて重要です。またこれを取り巻く課題に取り組む若者の能力を強化することから、私たちは ASEAN 諸国、東ティモール、日本の若者を対象に、NGO や政府と協力し、SNS やオンライン講座を活用した啓発・教育を通じて能力を高める取り組みを実施します。

「気候変動・エネルギー」グループ1



【成果の発表】

太陽光発電システムの導入の効果、生物多様性の維持による自然保護、今後の都市計画など、エネルギー問題や環境保全の解決につながる事例の多くを見学や講義などを通じて学びました。

【アクション・プラン】

ゴミの削減、省エネなどに関する意識の向上、環境への配慮のためにポスターを貼り、自治体などと協働した啓蒙活動を帰国後すぐに各メンバーの大学から始め、地域などに広げていきたいです。

「気候変動・エネルギー」グループ2



【成果の発表】

エネルギー問題や環境保全など政府主導のものもありますが、民間企業や個人レベルでの取組も顕著でした。ASEAN 諸国では子供からの教育を始めとし、日本に学ぶべき点が多くありました。

【アクション・プラン】

Facebook や写真や動画などで活動を紹介することで大学生及びそれより若い子供たちを巻き込んで、彼らが住んでいるコミュニティでの掃除活動などを通して、より持続可能な社会を目指す活動を、長期的にしていきます。

「気候変動・エネルギー」グループ3



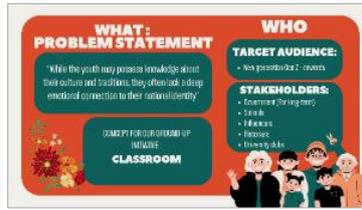
【成果の発表】

太陽光発電で消費電力と同量のエネルギーを得たり、緑化によって CO₂ 削減を図ったり、様々な取り組みを見ることができました。また個人レベルでゴミの削減など日本の社会で行われている事例を学びました。

【アクション・プラン】

各メンバーの地域の学校や大学でエネルギー問題への意識を高めるため、勉強会を開きます。また各学校などで緑化に努め、CO₂ 削減に貢献してもらえよう働きかけます。

「文化保存・教育」グループ 1



【成果の発表】

若山農場では、伝統工芸（竹細工）が体験を通じて伝承されていることを学びました。また伝統工芸品産業振興協会では、伝統工芸品の美しさ、歴史と工芸品とは密接な関係があることを学びました。

【アクション・プラン】

各国の文化を TikTok や YouTube を通じて発信します。自国の文化について、特に若い人に興味を持ってもらい、文化を保存する取り組みを促すことが目的です。長期的には特産品の需要を高め、文化財の保全のために、ASEAN 各国で協力したいと思います。

「文化保存・教育」グループ 2



【成果の発表】

文化財保存のための日本の取り組みについて学びました。手作りの工芸品を昔ながらの形で残していること、機械を効率的に利用していること、海外企業との協力、SNS を利用した発信が挙げられます。

【アクション・プラン】

伝統と現代技術とを融合した文化財（Modoculture）について SNS を通じて若者向けに発信します。有形文化財、無形文化財を対話型で紹介する内容です。長期的には若い世代を大勢巻き込んで、国境を越えた文化大使を育てることを目指します。

「文化保存・教育」グループ 3



【成果の発表】

日本での経験を通じて、各国の文化についても学ぶことができました。その上で自分たちで調べたところ、世界的に文化遺産の 60%が何らかの危機を抱えていること、文化財保全のためには教育が非常に重要であること、若い世代はオンラインのコンテンツを通じて情報収集していることを学びました。

【アクション・プラン】

Instagram、TikTok を使って「AROUNDASEAN」というキャンペーンを立ち上げます。正確な情報を発信して、ASEAN、東ティモール、日本の若い世代の人々が、伝統文化についての意識を高められるようにすることが目的です。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）